

月次棚卸の仕訳と集計金額を確認する

以下の前提条件における月次棚卸の仕訳例は以下の通りです。

前提条件

- 《 会計期間 》2011年 4 月 1 日～2012年 3 月31日
- 《 入力開始月 》4 月（期首導入）
- 《 当期仕入高 》0円
（売上原価の金額を説明しやすくするため、便宜的に仕入を 0 円で説明します。）
- 《 前期末棚卸高 》300円
- 《 月末棚卸高 》2011年 4 月 2011年 5 月 2011年 6 月
200円 100円 50円
- 《 期首残高 》※「商品及び製品」に、前期末棚卸高 300円を期首残高として入力します。

帳票名	勘定科目名	期首残高
貸借対照表	商品及び製品	300
損益計算書	期首商品及び製品棚卸高	0
	期末商品及び製品棚卸高	0

注 意

月次棚卸を実施する場合は、仕訳を入力する前に、[棚卸処理](#)（[\[導入処理\]-\[会計期間設定\]-\[会計期間設定\]](#)メニューの[\[基本設定\]](#)ページで設定）で「1：月次棚卸」に設定してください。

仕訳例

《 2011年 4 月における処理 》

前期末棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
期首商品及び製品棚卸高	300	商品及び製品	300

今回棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
商品及び製品	200	期末商品及び製品棚卸高	200

注 意

当システムでは、2ヵ月目以降、各月の最初に行う振替仕訳においては、「期首〇〇」の勘定科目ではなく「**期末〇〇**」の勘定科目を使用します。

≪ 2011年5月における処理 ≫

前回棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
期末商品及び製品棚卸高	200	商品及び製品	200

今回棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
商品及び製品	100	期末商品及び製品棚卸高	100

≪ 2011年6月における処理 ≫

前回棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
期末商品及び製品棚卸高	100	商品及び製品	100

今回棚卸高の振替仕訳

借方		貸方	
商品及び製品	50	期末商品及び製品棚卸高	50

《 合計残高試算表 》

	期首残高	2011年 4 月		2011年 5 月		2011年 6 月	
		借方 貸方	残高	借方 貸方	残高	借方 貸方	残高
【貸借対照表】		(□) (イ)		(ニ) (ハ)		(ヘ) (ホ)	
商品及び製品	300	200 300	200	100 200	100	50 100	50
【損益計算書】		(イ)					
期首商品及び製品棚卸高	0	300 0	300	0 0	300	0 0	300
		(□)		(ハ) (ニ)		(ホ) (ヘ)	
期末商品及び製品棚卸高	0	0 200	200	200 100	100	100 50	50
売上原価	0	300 200	100	200 100	200	100 50	250

《 部門集計表 》 ※集計方法を「発生」で出力した場合

	2011年 4 月	2011年 5 月	2011年 6 月
【貸借対照表】	(□) - (イ)	(ニ) - (ハ)	(ヘ) - (ホ)
商品及び製品	-100	-100	-50
【損益計算書】	(イ)	(ハ)	(ホ)
期首商品及び製品棚卸高	300	200	100
	(□)	(ニ)	(ヘ)
期末商品及び製品棚卸高	200	100	50
売上原価	100	100	50

参 考

月次棚卸に対応したメニュー（[\[部門集計表\]メニュー](#)（[\[会計帳票\]-\[集計表\]-\[部門集計表\]メニュー](#)） など）では、前月末の**期末商品及び製品棚卸高**の残高を、当月の**期首商品及び製品棚卸高**の金額として表示します。この結果、月次棚卸に対応した月次の売上原価が正しく表示されます。

参 考

棚卸の予算管理を行う場合は、別途用意されている資料「**月次棚卸における予算額の登録方法.pdf**」を、[資料ダウンロード]からダウンロードしてご確認ください。